

**製品名:** リン酸化タウ (S199) (9I10) ウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe06028

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000
分子量	79kDa

## 抗原情報

遺伝子名	MAPT
別名	MAPT; Microtubule-associated protein tau; MTBT1; Neurofibrillary tangle protein; Paired helical filament-tau; PHF-tau
遺伝子 ID	4137.0
SwissProt ID	P10636
免疫原	ヒトタウの Ser199 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

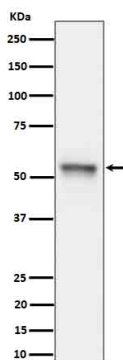
## 背景

微小管の組み立てと安定性を促進し、ニューロン極性の確立と維持に関与している可能性があります。C末端は軸索微小管に結合し、N末端は神経細胞膜成分に結合することから、タウは両者間のリンカータンパク質として機能することが示唆されています。微小管の組み立てと安定性を促進し、ニューロン極性の確立と維持に関与している可能性があります (PubMed:21985311)。C末端は軸索微小管に結合し、N末端は神経細胞膜成分に結合することから、タウは両者間のリンカータンパク質として機能することが示唆されています (PubMed:21985311, PubMed:32961270)。軸索の極性は、神経細胞内において、中心体によって定義される細胞体領域におけるTAU/MAPTの局在によって決定されます。短いアイソフォームは細胞骨格の可塑性を可能にする一方、長いアイソフォームは細胞骨格の安定化に優先的に役割を果たす可能性がある。

## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;アルツハイマー病

## 画像データ



マウス海馬細胞溶解物におけるリン酸化タウ (S199) 発現のウェスタンブロット分析。